萬葉拾穗抄

十五

和書門
類
二七三四九
號
九〇
函
七
架
三〇
冊

内閣文庫
和書
類
二七三四九
號
三〇
冊
二〇〇
函
一四
架
(四二才)

内閣文庫
番號 和 27349
冊數 30 (24)
函號 200 127

国立公文書館
National Archives of Japan

遣新羅使人等　一本表題ニハ天平八年丙子夏六月遣新羅國之時ホ

いにしへむかし神功皇后新羅百濟高麗をうちしたがへさせたまひしより三韓吾朝にしたがひ毎年使をたてゝ貢調(ミツギモノ)をたてまつる　聖武天皇の御時にいたりて使をたてしは天平七年二月新羅の使金相貞といふものきたりて新羅国を本号を改て王城国といへるによりてかの使をかへさせたまひて天平八年二月に従五位下阿倍朝臣継麻呂を遣新羅大使として正六位上大伴宿祢三中を副使として従六位上壬生使主宇太麻呂を大判官　正七位上大蔵忌寸麻呂より下の官人五位六位あはせて四十五人新羅へつかはされけるよし　續日本紀第十二巻に見えたり此集の遣新羅使に此御時のうたをのせたり　新羅なを常礼をうしなひて吾朝の使の旨をうけざりけるとそ天平九年正月此使の官人帰りきて大使継麻呂は津嶋にて卒せり

明治十二年購求

さうかく君ゆゑかね副使三中も病ゆ流して入京と
おくるゆゑにて大判官小判官などそのまゝ帰り入京しを
友人なれど内裏より召して新羅乃常礼をうしなひ使の旨をう
けざる事乃意見をのべさせしく時ありて或ハ兵を発して
征伐すべしといふ人もありしとぞ続日本紀同書に
阿倍継麻呂を大使とし新羅の使ハ上記日本紀に新羅
使をもてなさずして大判官に二人副使乃拝の遣ひし深く
侍りし書面ニ見えて事ともに此ハ何ゆゑに心と申す由にて
此巻此哥を見ゆるハ意味いと新羅とおなじ事なりといふ
古歌といへるハ天平乃新羅使の今帰国事をうけて家持等
出来るゆゑしかし此使の古哥を誦詠せし事ハ何とかくて
又新羅乃使続日本紀天平八年二月とあるハ使を遣はしけ月にて
一ト此集ニ六月とあるハ進発の時をいふなるべきにや

萬葉集巻第十五

遣新羅使人等悲別贈答及海路慟情陳思并當時所誦之古歌

贈答歌十一首

作者未詳

武庫能浦乃　入江能渚鳥　羽具久毛流　伎美乎波奈礼弖　古非尓之奴倍之

むこのうらの　いりえのすどり　はぐくもる　きみをはなれて　こひにしぬべし

大船尓　伊母能流母能尓　安良麻勢波　羽具久美母知弖　由可麻之母能乎

おほぶねに　いものるものに　あらませば　はぐくみもちて　ゆかましものを

君之由久　海邊乃夜杼尓　奇里多々婆

きみがゆく　うみべのやどに　きりたたば

むこ乃うらの入江ハ
童蒙抄云むこ浦ハ津の
国にありといふ洲
よりそこなるをいふより
祇曰入江乃すがたを
能あらはしていふなり
此乃哥也五条家云
なるこハそこそのもの
歌乃哥ハみてといふて
ゆかしき物をしとおもふ
てつかふべし
おもはれし妹の事も
祇曰そこハ海の中新羅
乃使なれハつまの事
妹をのこせる別れなき
るすへよめり

安我久知奈氣久伊枝等之理麻勢
あのしてちあけくいやもとさかやも
麻佐乎
秋ちくはあひえんものをおふしも
寄里
ゆきりよりつくおくをしまちさん
麻佐乎
文船
おかのねをけるまよりいつまの
安流美
流美
ふなのうへにあるまよりしまの
於伎都奈美
おきつなみ
真幸
まさきくていもいそいはなやうあり
都
ちへりしらしさいりあめやも
安我
わりれまいうめるんあらるも
於久理多流
ちふをさまをせてふのやそは
真幸
まさきくもこのたちまちまちとかいる

さい肿字
ゆきもこうトのも
赤使乃美
そもすきんを
わりゆしりといを疫う
女を盧めて使の請る
續日本紀ようまを
月ゆ
秋はゆりれと女を
盧んとそ
いうくふもの
特食新羅ご日本紀ようけを特乃字々へ
ゆもといりくきといん
ちろさすしとこと君り目をとハ
もろくふかりわゆそも女乃給
ふへも当ものれりとりすしハとゆ

ころもとりひしをあれそうめやも
わりゆへはなりいおやせう秋風乃
ふんそのけさありんのゆへ
多文史須麻新羅
ふふ史須麻新羅
ふふりりすりといひくきん
波呂たた
もろくふおりりるもきれそも
異
情
安我毛波奈久尓
けりこるをありそもるくに
自きを白きを
ちんらくくふ
ちろさすしとこと君り目をとハ
もろくふかりわゆそも女乃給
ふへも当ものれりとりすしハとゆ

小されいひて
被召大和守は出へ出
るをふ伊勢山とゆる
ことは妹の用をかり
ハ足をかりくこそ思
いとにあつすかつハ
先根本しいこまあを
こそうあつとハ
暫還私家陳思歌一首
そも遠遠り奈良迄
妹もあつすかつハせ
つくかつくこそ家に
かつきつつ
妹とあるし吹くれ
妹と二人ゐて吹く
かつくれそもの迄

一首　秦間満　北具良之

ゆくされいひて　安我
こそうあつとハ　伊毛我月
暫還私家陳思歌一首　作者未詳

いとにあつとかつくハ
伊故麻乃山とこそかつくハ
臨発時作歌三首　作者未詳

妹とあるつくハ
ころとてさむしきものふかつくる

海原
うかつくふうきあ
船をふわるを浮
寝とつ

おかとも乃うつの
ゆのかハ毎の幸福
やたゆ二津板持
きかまつとるくる
乃安云毎の坪吹と
行くくせるを　黒船
くせ船ときくハ時
別とかつくをこそ
私あつぬ振かつ妹
つ別と惜む故くを
あさひきこきて
乃安云あさひくき
紀湖くまハすを

海原
うかつくふうきあ祢ん黒ハおきつ風
大伴　於伎都
おかとも乃つの義津　妹もあつるくふ
いつまのきとしいかつ和礼ん
乗船海路上作歌八首　作者未詳

きかまつとの布祢
くやきくく妹をわつれまふ
あさひらきこきて年故宇良
きかつひの吹ふくつ三すし

わきもこかみ寺よ
兄安云京南爪まい
京南の梯案之書集
悠ろうさ故妹よ石い
ねくように見る空之
をろつれおきろ良
云ぎわしゝく
ぬるし宮れよりぬれし
八宅杼玉乃浦　紀伊
万づかまりするろうと
月よ子乃ひかりへ清え
神鳴　紀伊　備中小田
あるうも我ろて八宅杼
いるかれ浦　紀伊神
鳴月よみの光りを
比斎之浦中八よかし

わきもこかみ寺ふかんをいあみつの（印南都麻）
志しあみつみよをにうもらん
まつちおきつちあみてつて（和多都美）
うたかのとめしも志やかれんゆ（安麻　思麻我久礼行流見由）
ぬるし宮れよりはあけぬし宮れかふ（奴波多麻　多麻能宇良）
あきりすゝろあさきわするなり（余美　多豆）
月よみのひかりをきよみ神鳴乃（比可里）
いるかれうしゆ舟出すしもも（伊素未乃宇良　牟漏能木宇多我多毛）
をあれうふえるむろの木うらも
ひさしき時をすきふけるかも

もあれうふえるむろ　兄安云それろそられする極之祇曰うつうい
かりずめ離れ故よかりよ立くしそるきむろ乃木の名志さし
よをそ宗ふりるうもこきを木を兄くしまめろや十七年之常みさき
あくし山吹うつかりま君うろ中津す花ろしすうしをもうり
うめかするを君ろうあ中津きるし山吹のひをちしすりも常ふいとち
てよめるし揺舞よといれしてすあるくし乃あれれう
きうる人ゆあれそきしめや此うるうるいもいあをいお揃
いのれえきしいお揃しも定家て乃そうへ之舞まりてかうるへ
仙物向うて所るるきえ
あるしめ
志ちまりしくもし独そるいきもしいとり何りうるをの[illegible]
兄安云志南しくもも　志わまれむろのまりあれてあるらん
志つくしきし書集替
時も独其いる揺あれ
しめのむろの木も独
離れてたらんぞ

當時誦詠古詩（ソノカミ　ヨミテニ　テ）
詠雲歌一首（ヨル　ヲ）　作者未詳
（奈良）

おそあつしあつ乃みやこにけするひ[illegible]

あをやぎの　ちくらの
天乃白雲をいとうとう
ひとくちくりくあり
すと取りとりみつ
あをやぎれえる
又安云ゆしまさ
いゆくるる雅ちさ
仙曰ゆちきといん
調ねよりねちきと
いてるる　要素おろる
表ちるは初の雅ちさ
てようねは柳の枝か
ろゆねちきと云
てゆと注序曳
姉の神別出てこよ
ちれてこやちれす

ちれとあらぬ暗

戀歌三首　作者未詳

安平楊疑　あをやぎのえるきわかゆねるき　湯種蒔
忌忌　伎　ゆくちききみよこてけるるとし
妹　素氏　いてうてわれてひさふちりぬれと　比左
いとしいとしわすれてはやし　伊毛
わるはしみのうみよいてる　思可麻河信
しえん日ろうこあくこてやまめ　安我

古歌五首　平等女
多麻
しる面藻ちるをとわをとすきく

和多佐みりうみる
祇曰此哥ハ玉雨に
行りてよめり吉
も大和ゆ行る人を
こしくよりハ八七物云ちる面河物
しるとゆるをとやをるく　又安云
生田をとめ家乃おらりちるも　安云
いりすとハ物巻とむすてるゆや
ちりふしとこ寝欲すりゆゆ　呼況ハ巻する
をゆる海人とかりいりけし　云ふまハ野ゆなれハ　安云
柳本朝臣　一ーとハ人まろの哥よ玉しゆるみぬめをとて　安云れ野河の
海小舟　所ねこと

ちろとこ乃　安云
祇曰物ハ物をゆむ
る詠く　和曰荒代芙
蓉白しみりりき

柳本朝臣人麻呂歌曰みぬめをすきて　敏馬　須疑氏
かたしきの野潟ちさにいりすわれハ
又曰みねちりにさ
しるとゆるをとやをるく
生田をとめ家乃おらりちるも　又安云とをとめハ名五　玉案注の玉
いりすとハ物巻とむすてるゆや　但物ハ三ハ物ハ物ちる
ちりふしとこ寝欲すりゆゆ　呼況ハ巻する　安云ハ藻
をゆる海人とかりいりけし　云ふまハ野ゆなれハ　安云の野河と云
柳本朝臣一ーとハ人まろの哥よ玉しゆるみぬめをとて　安云れ野河の
海小舟　所ねこと

ちろとこ乃　安云
祇曰物ハ物をゆむ
る詠く　和曰荒代芙
蓉白しみりりき

柳本朝臣人麻呂歌曰ゆるこの
ろうこ乃ふいさりするあまとも
ろうん　名曰すきてるゆやうん

万十五六

旅のそう栲之あも
きしもさやのうつに
や飛ひとよき、も柿本の
哥ふハあらそへの若、
江の浦々の鱸釣をと
まかりてよつハおほ
あまさかるひなの長
道之新古今集にハ
乃人丸の哥ハこゝまて
れハ明石のとよりやま
とハ見しゆきと大和
島也此哥ハ山や一説海
むこのうみのにわよく 浪まて
見安云ふよくハ海
乃位もちく忘れ
玉葉 此哥ハ此集第三

ゆくわれを

あまさかるひなのなかちをこひくれハ 奈我道 孤悲
あかしのとよりいへのあたりミゆ 安可思 門 伊敝
柿本朝臣人麻呂歌曰やまとしまみゆ

むこのうみの 武庫 柿本朝臣人麻呂歌曰けいの海の
にはよくあらしいさりするあまの 介波 余久
つりふねなみのうへゆみゆ 一曰かり 宇倍 由
こものみたれていてみゆあまのつりふね 出
あこのうらに 安胡 柿本朝臣人麻呂歌曰あみのうら 安美能宇良
ふなのりすらむをとめらか 一 平等女

人丸哥けいの海の次ハ
よくかし刈こものき
あこのうらにふなのり
八雲にかけてこの浦も
因こに哥とも集一
人丸哥鳴呼見乃海
と云かの仙覚ものと云
さくらの立ハ明也
おもかけの○つきすちら 童蒙抄云
海をと云日本紀蒼溟と云々
と月のなりかりかり或説牽牛乃
なれ月を星の流る
大判官ハ此ほれ使ふ
大使副使判官主典ハ
かり遣新羅使乃
大判官ハ壬生使主字

まのすそに又曰たまものすそに
みつらんか

七夕歌一首 柿本朝臣人麻呂
おほふねにまかちしゝぬきうなはらを
こきてゝわたる月人をとこ 乎登祜

備後國水調郡長井浦舶泊之夜作歌三首 大判官

大麻呂也 あるニ注
あをによしの歌
旋頭歌也 旅泊の意
[illegible]古への人
に告知せよといふ心
うるはしや[illegible]
童蒙抄云[illegible]
旅宿の[illegible]
これにかれと云これと
あるは同音なれは
かへるさに妹に見せん
の安芸云白玉ひろひ
ては白玉ひろひて
わがゆゑに妹なけく
風速浦 和名ニ安藝
郡高田郡とある或

あをによしならのみやこにゆく人もがも
くさまくらたびゆくふねのとまりつげんに

作者未詳

海原や夜そ島かくりきぬれども
ならのみやこはわすれかねつも

かへるさにいもに見せんにわたつみの
おきつ白玉ひろひてゆかな

風速浦舶泊之夜作歌二首

作者未詳

わがゆゑに妹なげくらし風早の
うらのおきべにきりたなびけり

おきつかぜいたくふきせばわぎもこが
なげきのきりにあかましものを

説[illegible]と云とす
[illegible]の名なりの
事なれは安藝ニ在
所[illegible]女の事に云
りゆく海島の名なり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
童蒙抄云[illegible]
[illegible]
やまかはの清き

安藝國長門嶋礒邊泊船作歌五首

大石蓑麻呂

いはしるたきもとゞろになく蝉の
こゑをしきけばみやこしおもほゆ

やまがはのきよきかはせにあそべども
ならのみやこはわすれかねつも

いそのまゆたぎつ山河たえずしあらば

心明く
いそのまゆたきつ山川
いそのまゆハ石の間也
またもハさきの事也
秋かたまけてハ秋待
まうけてといふ心也
こひしけみなくさめかねて
仙覚ハなくさむるとも云
いはれしといふハ誤か
を云ハ詩の義なり
いはれしへ 一説庵
わか命をとハ長門のまく
我命をなかくといふ心
いん佩の心なるへし
ハ幾世をへてかとかる心
月よみの光を

またもあひみん あきかたまけて

こひしけみ なくさめかねて ひくらしの
なくしまかけに いほりするかも

わかいのちを なかとのしまの こまつはら
いくよをへてか かむさひわたる

従長門浦出船之夜仰観月光作歌三首　大石蓑麻呂

月よみの ひかりをきよみ ゆふなきに
かこのこゑよひ うらみこくかも

山乃はに 月かたふけは いさりする

童蒙抄云かこハ水手
と云り應神天皇十三
年に日向乃諸縣の君
牛海よ浮ひて来れ
角付る鹿乃皮を衣
服とせり時の人号
まかりし所を鹿子の
水門と号ス播磨の
国に凡かこを鹿
子といふハ此時より始
日本紀才十にあり
山乃をに月かたふけハ
あつさにハ晩近と云
あれと此ハ月傾 新り
すくなれハ漁火あれ
わたの海や魚舟を

あまのともしひ おきになつさふ

われのみや よふねハこくと おもへれは
おきへのかたに かちのおとすなり

古挽歌
悽亡妻歌一首并短歌　丹比大夫

ゆふされは あしへにさわき あけくれは
おきになつさふ かもすらも つまと
たくひて わかをには しもなふりそと
しろたへの はねさしかへて うちはらひ

心は
ゆふされは行へ[illegible]
海上乃芦鴨の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]沖
[illegible]
はねうちはらひて鴨は
[illegible]
さねとふ物と 小寝(サヌ)
[illegible] 児安二八さ
やうの飛物をとこゝろ
やさしめ
[illegible]
[illegible]

さねとふものを ゆく水の かへらぬごとく
ふくかぜの みえぬがごとく
あともなき よのひとにして わかれにし
いもがきせてし なれごろも そでかたしきて
ひとりかもねん

反歌

たづがなき あしべをさして とびわたる
あなたづたづし ひとりさぬれば

（多都我奈伎 安之敝 等比 多頭多頭志）

[illegible]

此哥も本哥あるへし 行末[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible] 山部赤人の哥
[illegible]
[illegible]
[illegible] 淡路[illegible]
[illegible]

属物発思歌一首并短歌（ツキテモノニ オモヒヲ）

作者未詳

あさされは いもがてにまく かゞみなす
みつのはまびに おほふねに まかぢしじぬき
からくにゝ わたりゆかんと
たゞむかふ みぬめをさして しほまちて
みをひきゆけは おきへには しらなみたかみ
うらみより こぎてわたれは わぎ
もこに あはぢのしまは ゆふされは くも

（美津能波麻備 敏奴賣）

雲ゐかくりね　也阿之
ゆくへをしらに　窮之
何の心　吾心明了〃
ころにて我心の諷経
うきね　舟にねる也
つらふけり　又安云
法乃つくへ但師説ハ
つく〃に連了深之
あかとき　暁し
りこれに云　又安云水
手と云舟子也云之
ふねとり乃　鳩鳥
あふ訓る趣あれハ
ふつさひとこいん訓
浪を無限に訓る也
ハへしま八宅料植〃

ゐかくりね　さよふけて　ゆくへをしら
に　わかこころ　あかしのうらに　ふね
とめて　うきねをしつつ　わたつみの
おきへをみれハ　いさりする　あまの
をとめハ　小船（こふね）のり　つららにうけり
あかとき（安香等吉）の　しほみちくれハ　あしへ（安之）
にハ　たつなきわたる　あさなきに
ふなてをせんと　船人も　鹿子（かこ）もこゑよひ
にほとり（尓保等里）の　なつさひゆけハ
いへしまハ　くもゐにみえぬ　あかもへる

けりとする　能云ま之
心なくやと　又要云心な
くさむやうと
よそのみに　よそにのミ之
一面乃ら八宅云紀
伊仙兄折月
なかし　そこ浜つく
なく子なす　ねのなか
りしくといひん訊譲
わたつみのたまきの玉
又安云諸神乃職也
玉案海神の手まき
すまき神とも玉也
ひろひ取　拾取也

こころなくやと　はやくきて　みんと
とおもひて　おほふねを　こきわか
ゆけハ　おきつなみ　たかくたちきぬ
よそのみに　みつつすきゆき　たまの
うらに　ふねをとめて　はまひ（波麻備）より
うらいそ（宇良伊蘇）を　みつつ　なくこなす
ねのみしなかゆ　わたつみの　たまき
のたまを　いへつとに　いもにやらんと
ひろひとり（比里イ比登里）　そてにハいれて　かへしやる
つかひなけれハ　もてれとも　しるしを

しるしをなみと　玉を拾
ひろふるしるしもなきを
玉乃浦の沖津白玉
ひろへりといへともひろへ
こもしちるしまゐ
やる使なけれハ持れ
ともしるしをなみと又
またおきつるといふ意
秋さらハ我舟はてん
とまりハ泊乃字を補
秋の秋まハ舟とめて
拾ふものにせんとの意
周防國玖河郡　今も
遣新羅使の時
まかちぬき舟し　ゆかす
舟順風なけれハ

しるしをなみとまたおきつるかも

反歌

たまのうらのおきつしらたまひろへれと
またそおきつるみるひとをなみ

あきさらはわかふねはてんわすれかひ
よせきておけれおきつしらなみ

周防國玖河郡麻里布浦作歌八首

作者未詳

まかちぬきふねしゆかすはみれとあかぬ
まりふのうらにやとりせましを

らすとて
いつしかもみんと
阿波嶋　阿波の意
いつはりと解し
阿波嶋を遠に見て
ゆくよしなけれは悲き
大船にかしふりたて
かしハ　とも　又
一舟に乗てゆく　意　あとは
安波嶋乃あはしと
割書て又ハ大系
しこふ妹られ
こそあつめれハ我
しとハひ汎の意
はるちかのくれ
可多の大嶋周防

いつしかもみんとおもひしあはしまを
よそにやこひんゆくよしをなみ

大ふねにかしふりたててはまきよき
まりふのうらにやとりかせまし

あはしまのあはしとおもふいもにあれや
やすいもねすてあかこひわたる

つくしちのかたのおほしましましくも
みねはこひしきいもをおきてきぬ

いもかいへちちかくありせはみれとあかぬ
まりふのうらをみせましものを

さよしくこひつゝ飛鳥も
きりしとし
はら家ゆめてまち
こ渕し
こひとハいかりそやとを
まく増まると旅
泊八代かハ備おこまを
仙覚おもに周防こまと
草枕旅ゆく人を
旅にてよふるまでと
祝ひしやらん名高くハ
ていまと歌也
大嶋鳴门周防大嶋郡なりや
これやこの名にをふハ
童蒙抄云うづしほとハ
潮乃うつまきをいふ也

いへびとハかへりはやことといはひしま
いはひまつらんたびゆくわれを
くさまくらたびゆくひとをいはひしま
いくよふるまでいはひきにけん

過大嶋鳴門而經再宿之後追作歌二首

田邊秋庭

これやこの名にをふなるとのうづしほに
たまもかるとふあまをとめども

奈流門　宇頭之保　多麻毛　登布安麻

作者未詳

あみのうへにうきねせしよひあどもへか

奈美　宇伎祢　欲比安杼毛倍香

おとめこハいゝの
みやまき男せね也未
通女也云り
波乃上にうきね
あどもへハ萬葉云義
こゝろしきこハ哀
とこゝそ又左つ人の
夢にみえけるとき
みやこにゆかん舟も也
舟をのぞむ也
あかときの家こひしき
うらみハ浦廻と同し
梶の音する付て旅
懐情を也
おきへよりしほみち

こゝろがなしくいめにみえつる

熊毛浦船泊之夜作歌四首

羽栗

みやこへにゆかん船もかかりこもの
みだれておもふことつげやらん

許登都碍

あかときのいへこひしきにうらみより
かぢのおとするハあまをとめかも

安可等伎

おきへよりしほみちくらしからのうらに
あさりするたづなきてさわきぬ

可良能宇良尓

おきへより舟人のぼるよびよせて

[illegible]

一云 [illegible]

[illegible]

筑紫海中忽遭逆風漂流経宿
西後幸得順風到著豊前国下毛
郡分間浦於是追怛艱難悽惻作歌
八首　雪宅麻呂

おきなきの今とはかりの物なれば
ゆきのまにまに風にまかせて

作者未祥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

可毋自也能
[illegible]
可見吾伎
[illegible]

至筑紫舘遥望本郷悽愴作歌

作者未詳

疑頭歌也

四首

之真
[illegible]

一日

[illegible]

万十五

[illegible]

可之布
[illegible]

日具良之

七夕仰観天漢各陳所思作歌三首

大使 阿倍継麻呂歌

ちきさに白る
織女乃星の成て張
牽牛乃舟のこぎ出
て行我乃業乃とゝ
ねれつゝもちやゝ川
よをゝ人乃ゆふ
時て秋乃白る我
業乃也乃上乃
よむと事のゝ

うふるて一夜妻
山年拾遺集ニ人丸
乃哥ゝ

の哥ゝふ也山家乃遣新羅使四十餘人乃中ふ人丸とゝ
ゆゆ拾遺集ニ人丸人麿乃ゝ新羅使乃哥ゝ
山家乃心ハ牽牛ゝ

ちきさに白る
織女乃星の成て張
牽牛乃舟のこぎ出
て行我乃業乃とゝ
ねれつゝもちやゝ川
よをゝ人乃ゆふ
時て秋乃白る我
業乃也乃上乃
よむと事のゝ

うふるて一夜妻
山年拾遺集ニ人丸
乃哥ゝ

の哥ゝふ也山家乃遣新羅使四十餘人乃中ふ人丸とゝ
ゆゆ拾遺集ニ人丸人麿乃ゝ新羅使乃哥ゝ
山家乃心ハ牽牛ゝ

ちきさに白る（疑）

[illegible]

一云あまれるものすくなくぬれぬ

あまれるものすくなくぬれぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

付て示教を乞と
皎々詩註説白也
流照 佛山照る光し
[illegible]
遠朝 續日本紀 [illegible]

大判官 壬生使主宇太麻呂

作者未詳

能世

作者未詳

草半 思香

久老麻久良

可也

於吉津奈美

作者未詳

可里半 都可比尓

奈良

引津亭、波多野朝臣作歌七首

大判官

引津亭、波多野朝臣作歌七首

作者未詳

以寄拾遺集ニハ人麿ノ序
の作ハいとうもこそ者
クロハ蘇武ノ白雪ハ
秋の野ヲ白雪ハ
詠ス節物ト雪ノ
ヤうもてすす
ひのあれハ
味をひいわれんわ
おもかゆこゝろ
ゝとけるハ
おもかのよ
ゝ朝ハ
しにあハ月
ゝをあ
おの物をひハ

波蘇

秋の野をあらすさハ
ゝ
いもをおもひ
さをしらあきつ
おもわよ
わきハ
よをあ
山ひ

等余朱

肥前國松浦郡貌嶋亭泊舶之夜遥望海浪各慟旅懐作歌七

慟 玉篇曰徒貢切哀極也

ハ
秋ハ
ハ日
あめ
こひ
ハ
ハ
ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぬばたまの夜もすがらに
（波波木藤半）
ちどりなくなり
（之武）
今日のうら明日もうらこいへりとて
まちうらんかたをかたみにいまもこそ
（登保久左可里紀）
ふりすやまもこのくさのわくに
いそがねのうらにはきまれるやうり
する君

反歌

伊波多
いそがの野かやりするまきこいりの
いつとわまをとりいりりうん

世尊ハ帝ノ子ノ子
孫ハ世ノ守孔帝ノ
ふるひと云ことなり
ありつちとともみ
天長地久ともみとは
人乃寿命をいとと
うけやしうとは
ひろ紀ま命ひて家を
ゝれ法ひ到て彩花
にゆくとろひ心や
一説ゝけゝと同日本
紀私記ゝ云法ゝ
月日をさへぬ未經ぬ
ゝて未ゝ月ハ居の
ゝことにて人をまる家

万十五 十二

ゝれねくのゝとわれねる
ゝしゝふあうこひゆん

一首并短歌　葛井連子老（クズヰノムラジコオイ）

ゝ地とゝたもかゝしおいて
いりとりんものとゝけやいへをゝ
ゝ　ゝ　ゝ
（都藝武）（伎奈氣婆）（安良々麻）
ゝけゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ

[illegible] 青柳

いつちいちひあて心
さきくしも叫くうせ
しうもちて世をわ
ゑれやふせ又そ行
らんとく
あひ[illegible]ねそふあれや
世をといく行り
行人ハ世をよりの花
ちくやうりてゆと
とこしされいれやいねそ
と云く空田野よしの
あをを信養ちくか
さめ事をを云ちを
ちつる ちるく
そけやーつも

伊良出

しさきくしもこりけるんこく
人つまつるんこのを世間れひの
あけきハあひ[illegible]ねそりあれやも
あきをきれちつる野豆乃そうをむ
かをりよみまをく今ををれらをき
ゑ乃にゆちものさむき心をり
やうりせるん

反歌

そけやーにゆもこをくしるくふ
まつんきをや幸ゆれわる

[illegible]

[illegible]ちて安陵えとりの行ゆ
ちくふハ遥小をを絶
しみちゆれおちんゆ
ねつ乃母者をの心
ををしちゆ
わつをみ乃ーこき
ゆんきををもも
宅間り桃者ちゆ
しちくゆん 無喪
人安云つうちくゆん
とりゆ
ゆまの行ゆ 人者云ゆ
きハ幸波の雲
ゆつてのうくを 穀
名寄よ幸波の雲

[illegible]

万十五廿三

[illegible]ちをれちりゆんむよやうりぬる
ちをまつんいとれうゆし

一首并短歌 六鯖 ムツサバ

わつをみ乃叫こきをちをやするも
白
ゆくおやみきくいまゆふもしちく
ゆんとゆまれゆるのかたてのうをを
かつやきくゆんとすをいれ
ことみちゆうちるわれをきを

反歌

むーちりゆ

可良久尓

ゆつるこれうをゆの

名所とてゆゑある所
と侍ふ所ひろけて
つやさと云しぢに泊
或説帆手乃よりとひ
ゆりうる所の侍ふ用
心しつゝ
別い幸芸ちと古
よりひしりすとく
ちつきこのゆみかつる
乙安ちちつき彩雲
也五東彩雲ゆゝ
家小海ん の進退
事の
さと日宅海と歌
物華 ゆゝ
山海の景氣と云

かゝ
新羅奇
ちつきこの
ゆゝ
到對馬島淺茅浦泊船時不得順風
經五日於是瞻望物華各陳容心作
由吉能之麻

歌三首　作者未詳

毛母布称
ゆゝ
志長礼
志
安来
安佐治
毛義多比
ちつ
ちつ
ちつ

しろたまれたまのちりこすかゆめ
こゆるしめ　ゆ
あをたまれうつる山
八重むらうつる山
八雲なる乃宮のうち
えいり

みちちかちしゆ山
山をゆハ山へり
ちしふハちるふる
山をアりこきり
無乃ゑすきにめて
てゑかきてりと
たりたまれ玉葉
きてうんハこきゆん

しろたまれうつるみちわきまて
かゝりくるまくちりこすかゆめ
小判官（スケイニツリキヒト）　大藏忌寸（オホクラノイミキ）　麻呂歌
あをたまのうゑる山とくれなゐの
やたりれいろりちりふくるし
對馬娘子（ノヲトメ）　名玉槻（ハヅキ）
みちちかちしふ山をゆてゆもの
ふりひりめてくいてくさふくり
たりたまのしろたまるひりこきてゐん
ゑりみゆをいつとりちゐん

しろたまけるまきたるきさをあきさをたまかてハ
玉あるハかめていつ
清深乃西ゑりゆ
ゆりく成てたりゑ
りく我出船すれハ今
ゆゑたまてゐん
つきやまれりみちを
海乃海ゆまて白ふ
出船の時ゑれハ玉
乃心を未飽ゑりと
ゑりしと人ゑ
ゆりハゆりゆ
紅ハたゆとハ汎
汎しゆハ下ゆ
掾懐を包しゆ

大使

しろたまけるまきたるきさをあきさをたまかてハ
ありすわまゆくかてるさだえん

副使

つきやまれりみちをかゝりをれい
うゑたりみちくいゆるちふ

大使

毛能　毛布

ゑりりとハいふゑしたるもの
たるゆこゑ
ふるゆにきゑへみる

作者未詳

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を形むけ給ふ也
いのちをしまるる
今今くあるこなか
きぬハ織絶しは河
るそこはの乃風うく
あるん日とその日と
ここやハ常おろさし
くいかり給ふ日神
岩戸の籠まハ六合常
闇と闇り日本紀ノ
ハ
いとくにこと
ハ
ハ
ハ

人のなをもせて
をとおりまちをせて
しのをもてをもて
ゆかりつとをもて
つめつちのうこひの
あめつちのいうこと
いん風ゆくうこひの海
文本集より紀伊とあり
天地乃寿を祈ても
乃忠誠へ一足安云さ
ねがひしとも
をもてをもて乃あくと衣
形をんをもて忠をも
をもて乃見れば姫さま
春日のをもてをもて云
をもてをもて和をもふ云て

ひとをふくきみをていつまてう
あうこひをんこをれをもてをく
つめはちの曽許比宇良ひのうをもあうことく
きみよこふんひとはさねかの
をもてをもて乃あうをもてをうおすす
をもてれをもてのせこいてふのみまてる
をもれ日のうをもあうきふをれみて
をもうこひはをうをけめやを宇都之家米也母
あうん日乃をもをもよせをとよわやめの
おもひをもれてぬるをもう

日数を待をんをもの
つりん日れをもてをり
をもやめ姫をもうを云
ひまあふせさをひ
つりをもうねふもを忘数
あ乃板人のをもくねも
かをひをんをもの人あり
をもこふ。他の男ふ
も通りんを姫をもう
をもをもの
をもうをもとあうをふ
へをりて、ひをて、を
むをひのを一日を
ひをもをひあうねを
を安をつきわをもれ
ハ月のをもを安素春日ひををもつりねを妹を一月をもをわをを

十三首　中臣朝臣宅守

過所
ひまあふせををこのをなをきす
あまをもうねすもやをすかをりん
我　ナイこ小母
をもうをもつりをもふいもを山門を
あをりりへをりてやすけくを
むをひのを一日をちすをりを
いをもをいををはさわをもて
つりを多をもうせをを平ををもくをふつりめ
をもつりいをもをよをりみをものを

行多こうせきも心心風山のかりけすとまりとの関西山とちもと
さすけのかりは
山祝おみ家く出家
山まとの秘訣とす
又安云ひとちかりの
こ六安乃人るちみまき
て心部ちと云へ主
東大宮人八今し入ち
かりと姫ひられいわ
うちき形小好貴の人
小ちみまちと姫ま
りいいやと
こちゆりちけも
椿象のりとゆりて
ちくかひちく偉て
めり茨おりまと

さすけ乃大宮人いまとしも
一云いまきくやひとちみりのみこの
みこちん
こちかてりちけそもれいちてると
おりいとまてくぬるようちかりと
さねるよハちりくあれそこのもいす
やすくぬるようハさねちまきこのと
れおみのれねとちりくさりよ
ちりきふちくすおのねり

可久左麻尓
須恵之多祢可良

さねるよハちりく
椿とりてぬるちと
実ちりこと

れちの常の理を
すちりくねホ先と
日お世乃因縁を云ハ
するゆれねりかく
涙人とちもと又安
ハ心のくねりくと
わちもふちを後山を
城おくのりを
こひとつくいこちふう
わり配流のうさふう
へてハれ常乃椿ハ
こちふ安しくもひ若
椿もをまきやと

わきもこふけりまきる山をこてけて
ちまきけくをれとけりもし
ひとつくいこちふすきすくもく
くりきこひもこちりもかも
山川をちるふへちりてどちくこと
こちりをちくおもいせわけも
まりかみかけて志のくとまりちす
かこみ乃ちのをひちに志めする
うりこと於毛比之於毛築波
こちくひよ
ゆひけけもてやまちす志のりせ

許等
多婢
許等乃尓
麻都里太須

とし、イこらえきれずやもめ若き妻はさきんやとしらとれと通ス
山門をあふへりて　なら山門を中よりてとおちし
まろかりみけてちのこと　まろかりすはをりゆすしあすはをりすは
うりとちいしちく　形えの為とうりくちひろてゆ物り
なてちちすあとし　
しるひいあしさなは　娘子
宅ちふ別て物々亡へ
くちと死ぬを名ゆ
ふ魂をうとふ
ちはされと亡ちす
く痛きすせん
りちとし
この比はえちをうと
四ゆ
ぬしるれちるし
ありすちみてしち

八首
しるひいけるゆくよたちれと
ありむねいるこひちけきる
このころは思をおちとすもおき
こひの子ちるくねのるうちく
ぬしるれちるえちをけるけさ
ありすちみていちるくやちき
安治麻
ちちち野ふやとれる思ちは可夫里ちん

とき乃ひしくをいつとうきるん
えんの乃やすはもねとしくふくと
まるんるものをしねえちも
かりるひきたりといりうは
かとくちふきえちとたもいく
えちりもるゆちるものをおりこと
をたくまこときるもし
和我世故
わりせこうかりきるさんとまれさめ
いのちのこさんまれるゆか
ちとりをとうく
かちんとえちりえるまるされけちりふちるん

急すてくること
ひすとこひすをと云
うこし
ちちち野ふ者れる
仙日ちち野　城ち
玉　重東流刑を免さ
まて　内京の遠をい
つと期せんと
えんの乃やすは
えちをと行為るえ
のるふもあぬるる
ちりるるえ其れと
えちをとるりて伊
人をとゆ思ちゆり
しとりをとうく
かちんとえちりえるまるされけちりふちるん

更贈歌二首　中臣朝臣宅守

家之使　安我　毛波　奈久尓

家布

御馬屋

和歌二首　娘子　須流須敝

多度使　半　之良尓

寄花鳥陳思作歌七首　中臣朝臣宅守

波奈　多知　波奈

知利　須具　良年

萬葉集巻第十五

長享三年五月十五日書了　新玉津島　新樹下畢　墨付廿三枚　秀今

国立公文書館
National Archives of Japan